

分科会活動・「勉強会」「研究室訪問」等続々……

中性子共同利用分科会・勉強会 中性子小角散乱測定

2010.10.19

10月19日いばらき量子ビーム研究センターで中性子小角散乱法に関する勉強会が開催されました。小角散乱法は平成24年度から県ビームライン iMATERIAにおいて本格的な測定が可能となります。勉強会では中性子小角散乱法の概要を判りやすく説明いただいた後、原子力機構 JRR-3 のトライアルユース制度を活用して、中性子共同利用分科会と工業技術センターとが連携して実施した実験(*)を取り上げ、そのデータ解析と評価について解説されました。身近な測定事例による説明であったこともあり、とても分かり易く、その後のディスカッションも活発に行われました。



説明する小泉氏 同・山口氏

(*)【連携して実施した実験】

実験は、①酸化チタン系触媒の中性子小角散乱によるナノ構造の解析（製造方法や処理の違いで、酸化チタンの粒子の形状や大きさがどのように変わるかを測定した）、②中性子小角散乱法によるファイラー分散状態の測定（樹脂にタルクや酸化チタンを混ぜ、その混練回数とファイラー（混ぜ物）の分散状態を測定した）から成る。



勉強会終了後も議論に華が

H23年度上期中性子ビームライン

実験課題募集開始 2010.11.17～

平成23年度上期の中性子ビームライン(BL)実験課題の募集が始まりました。平成23年度上期の利用期間は、平成23年4月から同年11月の予定です。尚、募集の受付は平成22年11月17日から同年12月7日(午後5時)です。詳細は、それぞれ下記のURLをご参照ください。

- 茨城県中性子BL 実験課題募集要項
http://www.sf21-ibaraki.jp/kadai_kobo/index.html
- 県以外のJ-PARC・BL 実験課題募集要項
<http://j-parc.jp/MatLife/ja/applying/koubo.html>

J-PARC周辺機器開発等分科会・研究室訪問 Z-Code について

2010.10.25

米村先生の技術解説



神山先生ご挨拶

10月25日、会員企業6社で高エネルギー加速器研究機構東海キャンパス 神山教授の研究室を訪問しました。神山教授は本協議会NEWS-10号でもお知らせしましたが、J-PARCの Super-HRPDの装置責任者でJ-PARC中性子利用セクションリーダーでもあります。

今回は神山教授のご挨拶の後、同室で協働されている同機構の米村准教授から開発中のZ-Code(*)中、特にZ-Rietveld解析について解説を戴きました。説明の中で、本ソフトウェアは、さらに使い勝手を良くするための開発を続けており、出席者への協力要請もされました。

(*)【Z-Code/スィー・コード】

世界では多様な粉末データ解析手法が開発されている。これらとの連携性、類型化、視覚化などの観点から解析ソフトウェアの高度化を独自に推進し、かつGUIを駆使し利用者の利便を考慮して開発されたさまざまな機能を有するソフトウェア群。

現在、ユーザにはZ-RietveldのMAC OS X版のみ配布されているが、H22年度内にWindows版の配布を目指している。

中性子共同利用分科会・見学会

JRR-3 中性子利用実験見学会

2010.10.26

10月26日、原子力機構 JRR-3 のビームホール 及びモデル実験の見学会を実施しました。見学した実験はRESA-II(残留応力測定



JRR-3 ビームホール



モデル実験

装置)による「マグネシウム合金材料の残留応力と集合組織の測定」などであり、参加者の深い関心を喚起しました。

研究者との緊密な連携形成に向けて 企業紹介シートを作成中です。ご参加を！

J-PARCの研究者や研究室に向けた企業紹介シートを製作すべく既にメールにてご案内中です。本シートを研究者に配信・持参し企業と研究者等の連携促進を図ります。是非、この企画にご参加ください。尚、本シートは他の国立研究機関(例えば、つくば地区)にもPR予定しております。(不明点など、お問合せは下記事務局まで)